

第1回 笠岡市都市・地域総合交通戦略協議会

日時：令和3年8月26日（木）15：00～17：00

場所：笠岡市交通交流センター

<議事>

1. 会長，副会長の選出について

（事務局）

- ・本協議会における会長，副会長の選任を行った。
- （一同）
- ・了承した。

2. 笠岡都市・地域総合交通戦略の策定について

（事務局）

- ・資料についての説明を行った。

（委員）

- ・買物タクシー事業について，対象者である“移動手段を持たない”の定義を教えてください。また，利用者の自己負担額，利用できるルートといった制限を教えてください。さらには，どういう移動目的で，どこからどこへ行っているか，教えてください。

（事務局）

- ・対象は，運転免許を保有しない（原付を除く）75歳以上の高齢者（令和2年度に改正）であり，1人に最大48枚綴りを渡している。利用料金は，1枚500円で，1000円を超える場合は，最大で2枚利用できる。利用できるルートに制限はない。主な利用目的は，高齢者の生活（買い物，医療等）である。ドア to ドアで生活移動を支える交通として今後とも増加傾向が見込まれている。
- ・タクシー事業と公共交通の連携については議論があるが，今後は，地域の方が主体となる自家用有償運送等も含めて，高齢者の移動支援の在り方の検討を進める予定。

（委員）

- ・チケットは利用料金が1000円未満なら1枚，1000円以上なら2枚使用できる。
- ・島に住む高齢者の方が原付免許を持っている方が多いことから，令和2年度に規制緩和を行い，原付免許を保有する高齢者も対象となった。適宜，社会実験を行い，利用者のニーズを把握しながら規制緩和を行っている。

（委員）

- ・1年間で48枚しか使えないということか。

（委員）

- ・乗り合わせによる利用も可能である。利用率は48%程度で、使い切る方もいれば、残す方もいる。

(委員)

- ・48枚は高齢者の方が最初に買い取るのか。

(事務局)

- ・チケット購入に対する利用者負担はなく、利用したタクシー料金からチケット分を除いた残額部分が自己負担額である。

(委員)

- ・利用者は自ら申請して、市から利用者に郵送してチケットを配布している。
- ・市としては、チケットの利用分を後からタクシー事業者に請求してもらい、支払いを行っている。

(委員)

- ・パーソントリップ調査結果について、調査時期は12月とコロナの影響がある時期だが、比較対象の平成27年はコロナの影響はなく、“全国値より低い”という考察は、笠岡市としてコロナの影響によるものと考えているか、そもそも人の動きが少ない地域によるものと考えているか、どちらか。
- ・コロナによる影響がないデータと比較したい場合は、地域公共交通網形成計画を作成する際等に調査したものがあれば、それらを使用すればよい。
- ・本計画は、ある程度先まで見通して計画を検討するものであるため、将来的にコロナによる交通行動への影響がなくなるかは定かではないが、平常時のデータも含めて、検討したほうがいいように思う。

(事務局)

- ・パーソントリップ調査は、令和2年12月に実施しており、平常時のデータとして過去にパーソントリップ調査を実施している等の特段比較するものは持っていない。
- ・本計画は、令和17年までの計画ではあるが、5年ごとに見直しを図るため、必要に応じて見直しのタイミングで、パーソントリップ調査やアンケート調査を追加調査等の実施を検討する。

(委員)

- ・地域公共交通網形成計画等を作成した際の調査の状況を見直して、地域間の移動等を整理すること。

(事務局)

- ・地域公共交通網形成計画では、市民の移動状況についてのアンケート調査を実施しており、具体的な地域間の移動を確認した調査は見受けられないものの、これまでの調査結果などを踏まえて、今後どの様に進めていくか見直しも含めて検討する。

(委員)

- ・パーソントリップ調査の地域間の移動に関する調査は、これまでに実施していることが考えられる為、確認いただきたい。

(委員)

- ・パーソントリップ調査のやり方は、全国値においても、市で独自に実施したものと同様に、同一日による調査なのか。

(事務局)

- ・全国の調査結果についても、特定の一日の調査であり、時期も同程度である。

(委員)

- ・全国の調査はどの時期に実施したものか。

(事務局)

- ・基本的に交通量等の調査については、年間変動の平均値に近いとされる10月～12月の期間で行うことが多いため、その期間に実施されたものと考えられる。

(委員)

- ・都市部では頻繁に、例えば週3日程度外出するが、地方部ではなるべく外出機会をまとめようとするため、外出頻度が少ない。都市部と地方部で同一日の調査を比較してもよいものか。

(委員)

- ・調査時期を12月にした意味はあるか。

(事務局)

- ・特別な理由はない。
- ・全国平均として示した平成27年の調査結果は、地方部も含めた全国の移動特性を平均化したものである。

(委員)

- ・各地域とも同じ一日の調査か。

(委員)

- ・全国の調査結果は国土交通省都市局が実施している調査の結果であり、10月～11月の平日、休日に全国70都市それぞれ500世帯を対象に実施している。三大都市圏や地方部等のそれぞれの地域から対象を設定しているなど都市部のみのデータではない。
- ・集計方法はデータ等をみながら、地方部のみで平均値を算出するなど検討する。

(委員)

- ・課題、基本方針等については今後の検討に関わる部分の為、委員の方にはよく見ていただき、次の検討に進みたいと思っているが、内容について意見等はないか。

(委員)

- ・本計画での公共交通は誰を対象と考えているか。例えば、交通弱者への計画としてとらえるか、市民全体を車利用から公共交通へシフトする計画と考えているか、基本的なス

スタンスを示していただきたい。目指す将来像は、車社会からの脱却を目指すなら問題ないが、市民の移動の7割が車に依存する現状に即しているとは言えない可能性がある。計画全体として、市として車から公共交通への転換を考えていくのか、交通全体としての将来を考えていくのか。考え方とそのスタンスを教えてください。

- ・市民の方へのアプローチはどのように考えているか。

(委員)

- ・パーソントリップ調査の結果、市民の7割が自家用車で動くなかで、本計画における公共交通の位置づけは整理が必要。関連する計画とのその期間が示されているが、地域公共交通網形成計画は将来に矢印が続いておらず、継続しないように見受けられる。地域公共交通網形成計画の次期計画はどのように考えているか。その場合の本計画の位置づけはどのように考えているか。それによって、自家用車や徒歩も計画対象なのか、そうでないのか、把握できると思う為確認いただきたい。

(事務局)

- ・地域公共交通網形成計画は、令和4年度を計画初年度として、今後策定する予定である。ただし、対象範囲は福山、笠岡だけか、福山、笠岡、近隣市町村とするか調整中である。
- ・福山や笠岡の公共交通網の整備について検討するのが地域公共交通網形成計画であることに対し、本計画は、公共交通を含めたまちづくりのハード整備を検討するものである。駅周辺や郊外を公共交通と絡めてどのように整備するか、検討を行う。
- ・笠岡市の現状の公共交通は、交通弱者に向けた交通という視点を持っているが、今後テクノロジーの進展で安全な移動もできることも踏まえて公共交通にも共有できていたら良いと考えている。

(委員)

- ・要するに公共交通だけでなく、ハードも含めて計画の対象になると考えていると理解した。
- ・ここでいうハード整備は、駅の整備の話か、スマートIC整備などの道路整備の話か、道路空間の再配分の話か、どこまでを位置付けることを考えているか。

(事務局)

- ・立地適正化計画に示す通り、本市ではコンパクトシティの形成を目指していく方向性である。それに向けて、公共交通はネットワークとして整備していく。また、駅周辺が主要な交通結節点であるため、利便性の向上を図るとともに、魅力ある快適に暮らせるまちづくりを目指す意味でも駅周辺を整備していく必要がある。
- ・道路部のスマートICについては、具体的な回答はできないが、将来に向けて検討を進めていくことを考えている。

(委員)

- ・スマートIC等の整備が進められているなかで、今後どうするかを今、考えていくのは遅い。とは言いながらも、すでに関連する市の計画や将来像を反映させるためには、

より広い全域の視点や周辺地域との連携を踏まえて、検討するべき。

(委員)

- ・ 目指す将来像の交流拠点、新交流拠点とは何を指しているのか。具体的にどのような施設が出来るのか。
- ・ 市民が駅に来ていない現状があるなかで、唐突に駅を中心にしたまちづくりを描くことは、絵に描いた餅になりかねない。現在、駅利用者も少なく、**にぎわい**が少ないなかで、駅周辺の利便性を上げて、市民は興味ないのではないか。

(事務局)

- ・ 笠岡駅周辺は、公共交通やタクシーの起終点であること、航路利用者がいることから、利用者が少ないとは捉えていない。そのため、重要な拠点として位置づけ整備を進めていくべきであると考えている。
- ・ 現在の駅周辺は、商店街や市役所通り等の北側を中心に**にぎわい**を生み出すことを目指しているが、線路で分断され駅南側へのアクセスは難しくなっている。また、鉄道を利用して観光客が来訪しても駅の北口から南側へアクセスしなければならず、加えて市民のニーズとしても南側への導線確保のニーズがあるという状況である。そのような背景から駅の南北を繋げたいと考えている。

(委員)

- ・ 補足説明として、駅の南側の新交流拠点は、笠岡諸島交流センターのことであり、ここでは貸館業務を行っており、休日マルシェやピアノを設置し音楽イベントを実施する等の市民が集う取組を行っている。また、駅の北側は、市役所通りでの**にぎわい**を生み出す取組を行い、ストリートとして面的に繋げていくことを考えている。
- ・ その核となる駅の**にぎわい**をつくっていきたい、ということが主題にある。

(委員)

- ・ 交流拠点とは、小学校のことか。新しい施設ができるのか。

(委員)

- ・ “通りを**にぎわい**の場所とする” という意味合いであり、そのような表現をしている。新たな施設ができるという意味合いではない。
- ・ 面的に見た目を修正する。

(事務局)

- ・ 将来像に示す“新交流拠点”は、駅の北側に新しく拠点を設けるものではない。市役所と駅を結ぶ通りでイベントを実施し、**にぎわい**を生み出す空間とする。南から駅を利用する人は多いため、まず南口改札を整備することを目指し、さらに、南から駅を訪れた人が自由通路から北へ抜けていく導線を確保し、駅の南の笠岡諸島交流センターも含めて、北と南の一体化を目指していく。また、バイパス、IC周辺も企業の誘致などを目指した都市計画の見直しを検討している。駅周辺を整備したのち、駅からそういった場所に公共交通をつなげることも検討している。

(委員)

- ・過去に作成してきた計画がオーソライズされていないように見える。笠岡市の中心部の目指す将来像（特に南側）のイメージ等が伝わってこないのでビジュアル的に伝わるものを作っていくことが必要。
- ・今、駅周辺が何もない状況のなかでは、整備の必要性が伝わりにくい。少なくとも委員にはイメージを共有しておくことが必要であり、イメージが伝わるものを作成してほしい。

(委員)

- ・自分も公共交通に関わっているが、利用に合わないことからバスを使っていない。買い物荷物が重くバスを降りてからの移動が負担である。タクシーのようなドア to ドアの移動手段でなければ生活の中で使えない。自動車ばかりに依存しない交通をつくるために、公共交通を多人数で利用し同じエネルギーを使うのであれば環境保護にもなるので公共交通を利用しやすくしていただきたい。

(委員)

- ・市民に向けては、公共交通や自動車も含め、選択肢を用意することが必要。さらにそれらが使うに値するサービスであることが大事。MaaSや自転車のシェア、自動車のシェア等、自動車一択だけでなく、どのようなやり方やニーズがあるか検討し、提供するだけでなく使ってもらえる取組を実施していくことが必要。
- ・中心部の移動をどうすればいいか、電動車いすのシェア利用など自由な発想で、固定観念に縛られずに、駅南北が繋がれた先に何があるかを意識して考えて、検討を進めてほしい。

(委員)

- ・バス事業は、コロナ禍における利用者数の減少により経済的な損失が大きかった。福山市や笠岡市等では、幹線以外の路線は、バス以外のフィーダー系統等で維持し、主要な幹線のバス路線のみを維持していきたいと思っている。
- ・現在、乗務員は約30%以上が65歳以上である。今後は必要な路線とそうでない路線の取捨選択も必要になってくるため、必要な路線を維持していくために、今後の検討においては、関係各社と調整して進めていきたい。
- ・また、資料ではバス利用者は横ばいと記載があったが、実際には大半が障がい者や高齢者等である。今後も今日の意見を受けて、バス路線の維持・利便性の向上等、進めていきたい。

(委員)

- ・どの路線を幹とするか、どの地域とどの地域を結ぶか、ほかのモードとの関係をどうするかは今後検討していく必要がある。
- ・そのほか意見等はないか。

(委員)

- ・まちなかまでは車で移動し，中心市街地は公共交通で回ることができるなど，人口分布や施設分布，将来の展望に応じた戦略的な取組があっても良いと思う。確かに維持が難しい路線を削減する動きもあるが，少なくともまちなかでは公共交通を利用するなど，そのような考え方があってもいいと思う。
- ・駐車場を中心市街地周辺に分散して立地させてその間を公共交通で結ぶ，駐車料金やバス運賃を格安にするといった，まちなかの提案等も併せて，検討していただきたい。

(委員)

- ・駐車料金とセットのバス乗り放題パス，バスの一日乗り放題の乗車券など，さまざまな方法があるため，それらを含めて検討すること。

(委員)

- ・まちなかでは，小型で低床なバスがあれば，なおよい。

(事務局)

- ・グリーンスローモビリティである渚ライナーや，笠岡ぐるりんバス等，中心市街地の新しい交通手段も検討しているところである。今後，実験時の利用実績等を共有していきながら，将来に向けた検討を引き続き行っていく。

3. その他

(事務局)

- ・次回協議会では，11月下旬を予定している。

以上